

平成 28 年度山口市市民活動支援センターさぽらんて事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

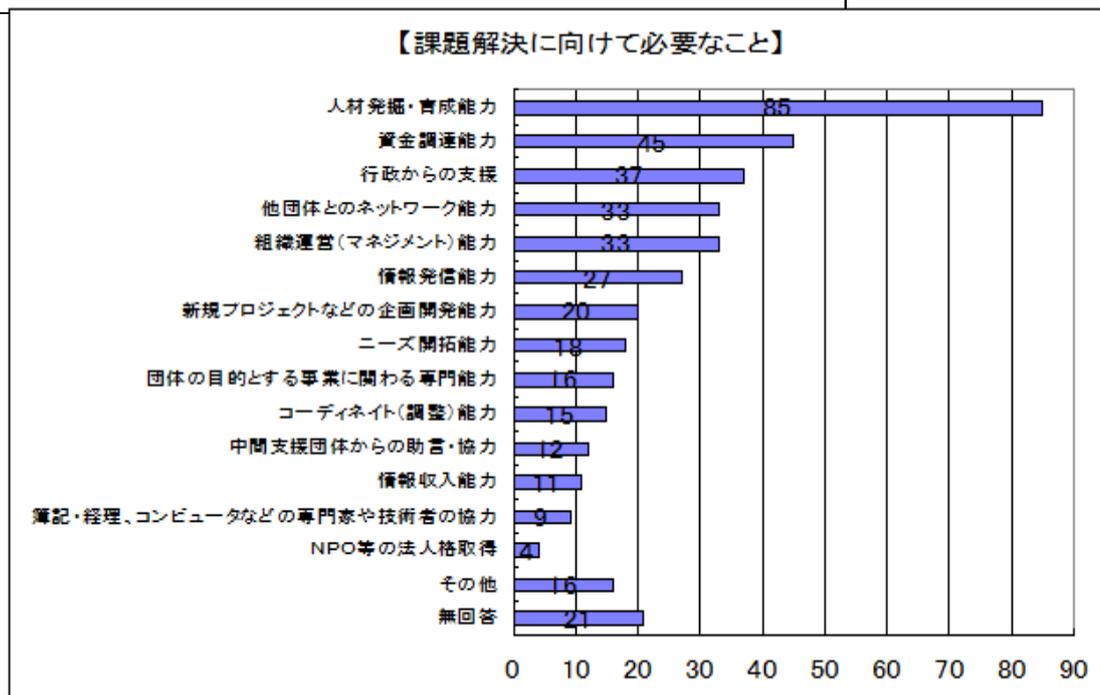
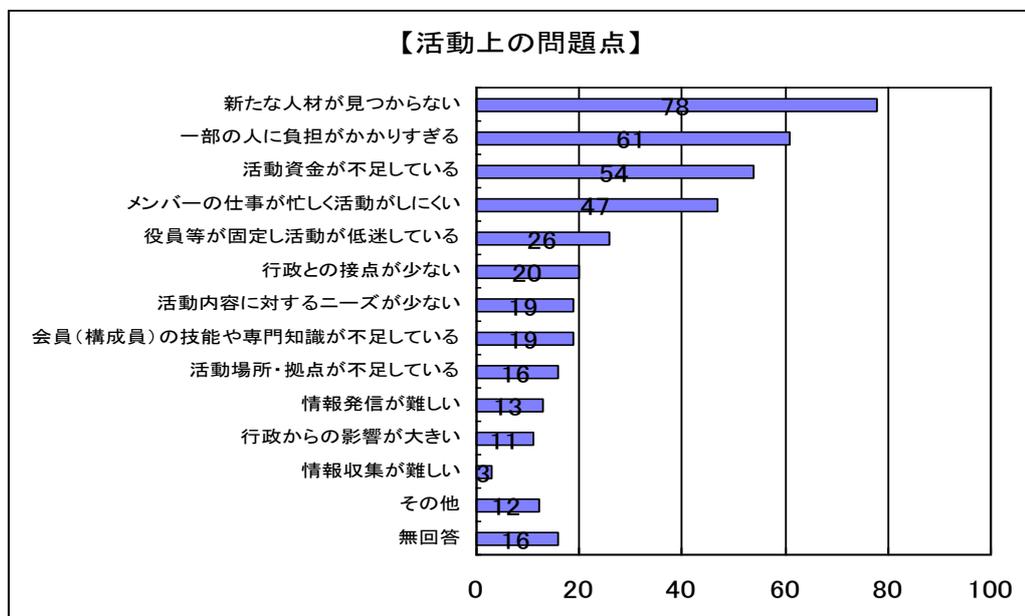
I 平成 28 年度さぽらんて事業背景

山口市の協働推進条例に基づいて、市民や市民活動団体が協働のまちづくりに向けて役割を果たせるように支援をする中で、下記の課題も踏まえ計画的に事業を実施。

1 市民活動支援を行う上での課題認識

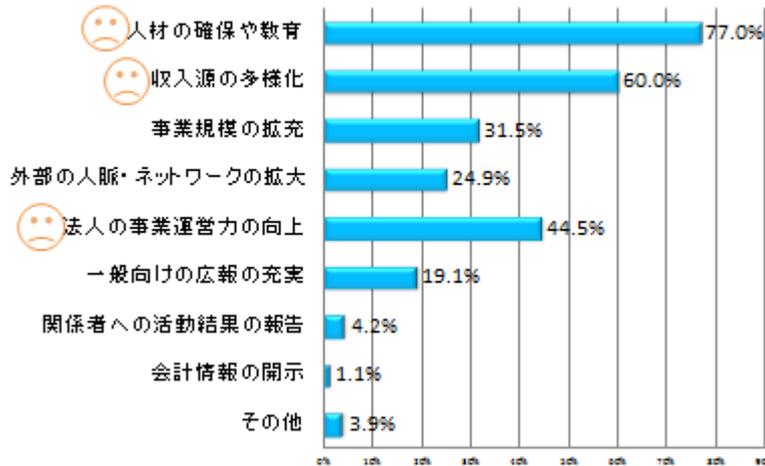
山口市の市民活動団体の課題

市内の市民活動団体が抱える課題は「人材不足」が一番多く、課題解決に必要なこととして「人材発掘・育成能力」となっている（下記グラフ：平成 26 年度山口市市民活動団体実態調査より）。



【全国のNPO法人の抱える課題】

(複数回答)n=1,748



<内閣府HP:平成27年度 特定非営利活動法人に関する実態調査>

内閣府のNPO法人の実態調査によると山口市の市民活動団体と同様「人材確保や教育」が一番の課題となっています。続いて、「多様な収入源」「法人の事業運営力の向上」となっている。

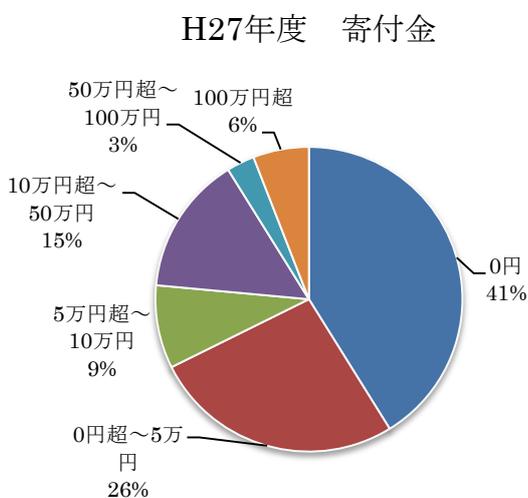
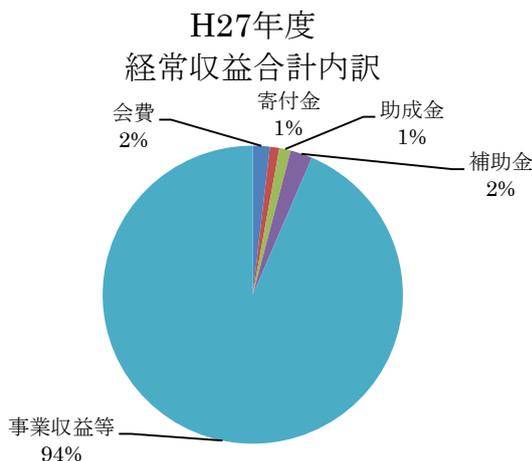
山口県のNPO法人データベースの中から山口市のNPO法人の会計状況を集計（報告書資料：山口市のNPO法人の実態参照）すると、総額13億余りの経常収益の内訳をみると介護サービスや委託事業

が94%を占め、寄付収入は1%足らず。

寄付収入があるのは全体の59%で、そのうち50万円を超える寄付を集めている団体は6団体に留まる。

また、事業報告書未提出の法人10法人。提出のある68法人のうち報告書が1Pのみが32法人（44%）となっている。

NPO法人は、自らに関する情報をできるだけ公開することによって市民の信頼を得て、市民によって育てられるべきものであるが、その趣旨を理解し、運営力向上に努めているNPO法人はまだ少ない現状がある。



《市民活動団体（NPO法人含む）の集約される課題》

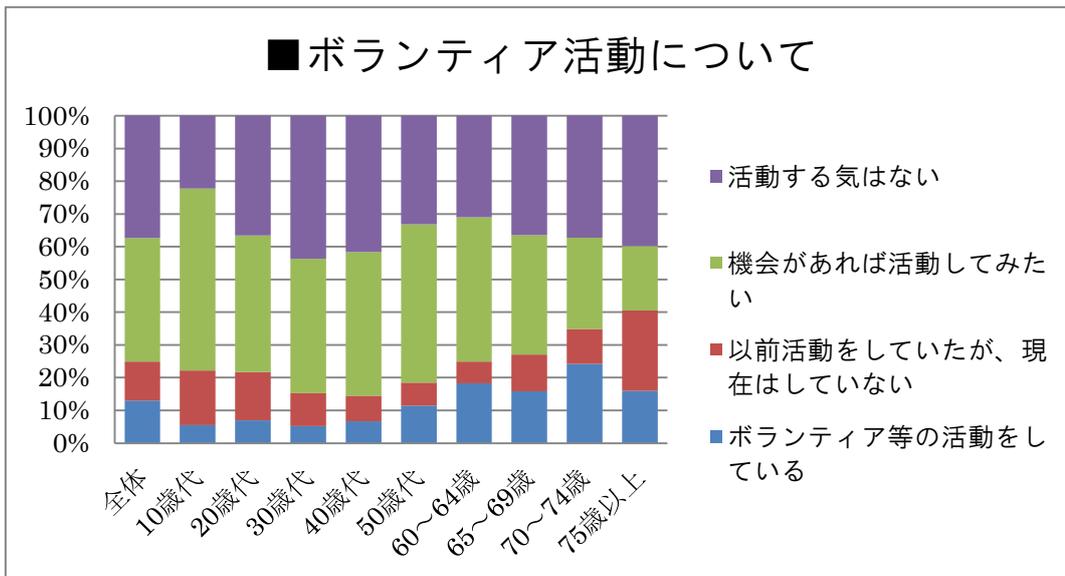
人材確保や教育、多様な財源確保に向けての体制や運営力強化がすすまない。

《考えられる原因》

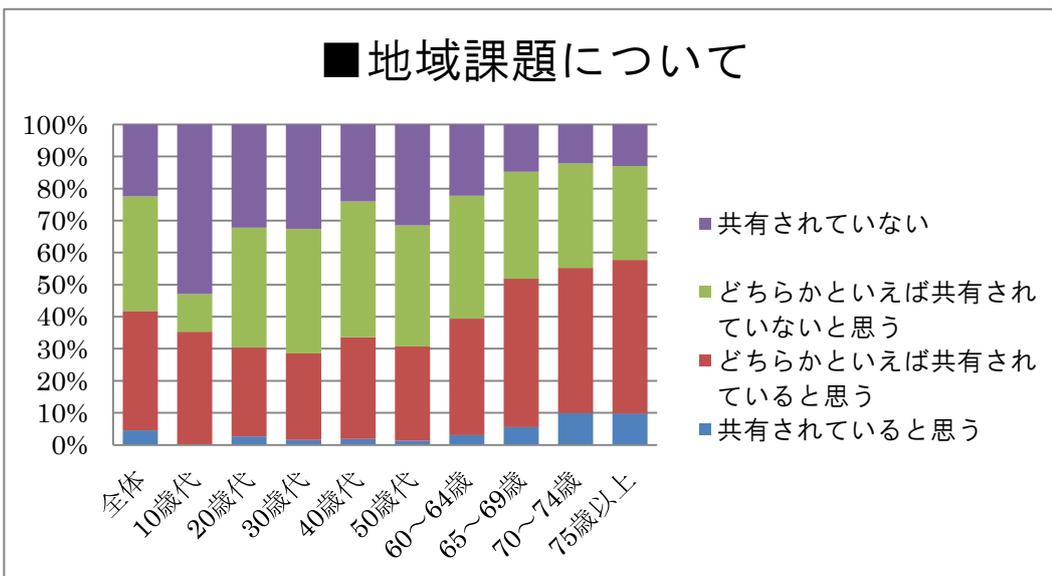
- ・事業に追われ、運営体制を整える余力がない。
- ・非営利組織のマネジメントをどうすればよいのかわからない。

市民意識の現状

山口市まちづくりアンケートから



10代～60代までのボランティア意欲は平均値を超え、特に10代、20代のボランティア意欲が旺盛な様子が見られる。



全体的に「共有されていない」「どちらかといえば共有されていない」が半数を超える。「共有されていない」「どちらかといえば共有されていない」という思いは、20代～50代は65%以上を占め特に高い。

《市民側の集約される課題》

- ① 学生や一般の「機会があれば活動したい」と思っている人が多いのに活動できていない。
- ② 20代～50代の市民で「地域課題が共有できていないと思う」人は、65%以上を占める。

《考えられる原因》

- ① 活動のきっかけがない。(情報が無い、忙しくてもできる活動がないなど)
- ② 地域課題を共有する機会がない。(情報が無い、話し合う場がないなど)

Ⅱ 平成 28 年度さぼらんての主な事業の分類

I の課題を踏まえて相談などの基本支援の他、以下を中心に事業を展開。

- 1 市民活動団体（NPO 法人含む）の運営力の強化
- 2 課題を中心にしたつながり促進
- 3 若い世代の巻き込み

1 市民活動団体（NPO 法人含む）の運営力の強化

11P-14P

(1) 市民団体活動充実支援

広く市民活動団体に向けて「助成金講座」「チラシ講座」「Excel 活用講座」「SNS 活用講座」などの講座の他、助成金情報の発信や活動上の相談対応をしていった。

(2) NPO 支援

「ソーシャルインパクト志向 NPO 超育成塾」「ロジックモデル勉強会」などのセミナーの他、「企業×NPO のつながりプロジェクト支え人。」として寄付金 265,594 円が集まった。

NPO 法人へのクラウドファンディングへの支援も行い、2 法人で 300 万円もの寄付が集まった。

その他、NPO 法人を目指している団体へのビジョン整理などの訪問支援を 5 団体に向け 18 回実施。

2 課題を中心にしたつながり促進

16P-19P

(1) 地域版コドモジカプロジェクト

平成 27 年度の市民団体の円卓会議（さぼカフェ）からスタートした「街中コドモジカプロジェクト」を大内の単位自治会 3 地域へコーディネート支援。

(2) さぼカフェ（課題を中心にしたテーマ型団体円卓会議）から防災講演会を実施

災害時の支援の不安を持っている団体に声掛けしてさぼカフェを実施し、その困りごとを地域と共有するために、市民団体と行政が協働で防災講演会とシンポジウムを実施

(3) 山口市公共交通地域検討会

市内 10 地域で行われた山口市の公共交通の地域検討会のプログラム作成と 4 地域 2 か所のファシリテートを行いそれぞれの地域の公共交通を考える話し合いを支援。

(4) 市民活動団体円卓会議（協働に向けての意見の吸い上げ）

協働をテーマに協働推進課を交えて夜の部、昼の部それぞれ 2 回ずつ実施。11 団体が参加。

3 若い世代の巻き込み

14P-15P

(1) 若者の社会貢献コーディネート事業

若者ボランティアを必要とする市民活動団体とつなぎ、社会課題や社会貢献の意義に触れ、参加の場を提供し、双方が共通の目的・目標を持って活動できるようにコーディネート。

(2) 中学生職場体験プログラム

「こども向け社会貢献教育プログラム」の確立に向けて、職場体験を受け入れた（3 年目）。

(3) インターンシッププログラム

大学生からの申し出により、大学と調整して受入れ体制を整え、実質 11 日のインターンシップを初めて受け入れた。本人の充実度も高く今後も計画的に受け入れ予定。

Ⅲ 委託契約に基づく事業報告（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

契約書に基づき「施設管理機能」「普及・啓発及び情報収集・提供機能」「相談機能」「人材発掘・養成機能」「協働促進・ネットワーク機能」「事務局支援機能」別に以下のとおり報告します。

1 施設管理

山口市中心商店街へ設置された拠点機能（ハード）を活用した支援機能（ソフト）となるため、市民活動団体への支援を中心に幅広い利用者を想定し、下記の対象別エリアを設定し対応。

【対象別エリア】

○市民の自由な情報交差点（入口オープンスペース）

一般市民が自由に入館でき、情報収集しやすいレイアウトに。また、入館しない市民へも配慮し、ショーウィンドーも活用した。

○団体の自由な活動形態を応援（会議室・2階ワークスペース・和室）

会議・講座はもちろん、専用事務所を持たない市民活動団体の作業場としても、出来る限り活動しやすい方法で柔軟に対応。

○気軽に相談できる場（1階拠点管理事務スペース）

職員に気軽に相談できる雰囲気大切に、登録団体との情報交換や気づきの共有を心がけた。

（1）開館日

水曜日及び年末年始（12/29～1/3）を除く毎日

開館日数：307日

閉館日数：58日

（2）開館時間

平日・土曜日：10:00～19:00

日曜日・祝日：10:00～18:00

※利用団体の10時からのイベントや講座などの準備に合わせて、9時より対応可能とした。

（3）各種手続き書類の配置

①市民活動団体向け

- 登録市民活動団体への提供サービスのしおり
- 市民活動団体登録用紙
- 会議利用報告書
- ブログ反映機能申請書
- 印刷機利用カード
- 機材借用書（貸出）
- 持込みイベント申込書・報告書
- インターネット使用簿
- 窓口業務依頼申請書
- 学生ボランティア依頼書

②内部用

- 相談カード

- 機材貸出予約簿
- 拠点利用予約簿
- 日計表（日別集計表・累計表・月別平均表）
- 職員業務日報

2 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。拠点を活用し団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布した。

円卓会議やコドモジカンプロジェクトなど事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともに、かわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

(1) 市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報

団体ごとの個別ファイルを作成。

②NPO支援情報

③市外の市民活動情報

①～③の市民活動に関する情報をファイルし、閲覧できるよう整備。

また、団体向けには年間助成金一覧表を、分野別、締切日別に作成し掲示。

(2) 広報紙の発行

登録団体への事業報告や事業のかわら版を発行し支援内容を伝える他、団体が人材不足の課題を抱えているため、市民向けの啓発紙にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。

①さぼらんて事業情報

○さぼらんての平成27年度の事業報告ダイジェスト版

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

○平成27年度の登録団体一覧

【対象】 登録団体

【発行部数】 350部

○さぼらんての平成28年度の事業方針及び事業一覧

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

②助成金情報

身近な助成金を中心に隔月発行。併せて、希望団体にはメールでも毎月情報配信。

【対象】 市民活動団体向け 隔月発行

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 両面 手刷り

③ええやん新聞

平成 27 年度山口市まちづくりアンケートによると、ボランティア活動（NPO活動）を行っている市民の割合は全体の 12.9%と決して高くはないものの、「以前やっていた」「機会があればやってみたい」と回答の市民活動予備軍ともいえる潜在市民は 46.5%にもものぼる。とりわけ「機会があればやってみたい」との回答で、20～50 代が全体の 59%を占めている。

『ええやん新聞』は、身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信し、この層の新しい価値観との出会いや気づきを誘発、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的とする。

【実施ポイント】

- 市民活動をより身近に感じ、共感につながるよう市民広報記者による「市民目線」での発信を行った。
- 市民広報記者と発行目的を常に共有しつつ、記者自身の「知りたい!」「伝えたい!」「おもしろそう!」の直感を尊重した。
- 市民広報記者の研修、テーマごとの勉強会など必要に応じて行った。
- 毎号1面では、テーマに沿った社会課題に取り組む「個人の思い」を発信した。
- さぼらんとからのメッセージや取り組みも紹介し、さぼらんとと市民活動の周知につなげた。
- モニター制度を導入し、読者の生の意見感想をもとにさらなる紙面の充実を図ると共に、ターゲット世代の動向の情報収集を行った。
- まちづくりや社会課題解決に向けた初めの一步のハードルを高くしないよう、市民活動だけでなく地域や個人の活動、取り組みなどもあわせて紹介した。

【対 象】 市民（主に子育て世代想定） 年2回発行（9/26、2/2 発行）

【発行部数】 14・15号 各30,000部

【配布先】 市内公立幼稚園、小・中学校、21 地域交流センター、子育てひろば、一部地域回覧、他関係各所

【形態】 タブロイド判 カラー印刷

【HP発信】 PDFでホームページ上でも閲覧可能にした

【テーマ】 **14号**：特集「男女共同参画社会」～第一歩は家庭から～

1P：ええやんピープル 渡辺ちい子さん＜田舎遊びの会ゆるり 代表＞

2-3P：ボイス「男女共同参画って何だろう!？」

まんが男女共同さんかく家族「参加と参画のちがい」

パパッとパパレシピ

さんかくママのはなまる活動～3人のママの参画スタイル紹介～

4P：地域参画み～つけた!平川地区子ども見守り隊の活動紹介

たよってみ～ね ～山口市の託児情報～

クイズ、編集後記

15号：特集「ワーク・ライフ・バランス」～心にゆとりのある生活を～

1P：ええやんピープル 長安里枝さん＜林業女子会@山口＞

2-3P：ボイス「ワーク・ライフ・バランス」を見つめよう!

まんが男女共同さんかく家族

ワーク・ライフ・バランスが実現したら、こんないいことがある!

プロボって何?

山口で活躍する3人のプロボノ実践者を紹介

4P：おやじの会って知ってるかい？

春の野草レシピ

さぼらんととは？

クイズ、編集後記

【読者はがき（抜粋）より】

14号

「子育て真っ最中にも関わらずたくさんのママが活躍されているのを見てパワーをもらいました。まわりの協力のおかげで活躍出来る感謝の気持ちも忘れずに私も頑張りたいです」
「若い方のお話、とてもいいですね。私たちも子育てがしやすく住みやすい地域づくりをしていかななくてはと思いました」など
固定的な性別役割を見つめ直す、地域の取り組み活動への感謝、また多様な生き方、思いに共感する感想が多く見られた。

15号

「仕事ばかりしては家庭がおろそかになります。プロボノで仕事に繋がったり家庭に目が向いたりするのはとてもいいことです」
「ボランティア活動の必要性は感じているものの、毎日の仕事や家事が精一杯。プロボノは、新鮮でした。」など
仕事以外の活動に目を向ける感想が多く見られた。特にプロボノを初めて知ったという声は多く、共感や背中を押されるような感想が伺えた。

④活動インフォメーション

毎月の市民活動情報の中から一般市民が馴染みやすい情報を選定し、紙媒体として発行。商店街のちらし入れなど、広く市民の目につくところに配置。

【対象】 市民向け 毎月発行

【発行部数】 偶数月 1050部、奇数月 660部

【形態】 A4サイズ 両面 手刷り

⑤さぼらんてかわら版

さぼらんて事業後に内容をわかりやすくまとめたものを発行

ア かわら版 ～特別な配慮が必要な人を見過ごさない地域防災に向けて～

【対象】 市民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】 700部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

イ かわら版 ～地域版コドモジカンプロジェクト特別編～

【対象】 大内住民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】 1000部

【形態】 A4サイズ 4P カラー印刷

(3) ホームページの運用

ホームページ上における支援と市内の市民活動情報集積をめざし、団体のブログ発信力を支援し団体の活動の見える化に努めた。団体の情報発信数は1,982件(515件増)。

また、独自の講座などは、わかりやすく講座レポートとして発信するほか、市民や活動団体への有益情報を随時お知らせとして広報。現在地域課題をわかりやすく発信するなど平成29年度10月を目指して

ホームページリニューアル作業中。

アクセス数は、115,685件（1,265件減）、実人数40,319人（604人減）。

①ホームページ全体閲覧数

	H28年度	H27年度	H26年度	H25年度	H24年度
アクセス数	115,685	116,951	127,223	113,536	92,782
アクセス実人数	40,319	40,923	39,606	36,889	27,518

②まちサポ広場（電子図書館）の市民活動団体利用

平成25年度より登録団体の基本データは全て掲載。

	H28年度	H27年度	H26年度	H25年度	H24年度
利用団体数	297	301	290	293	128
更新団体数	64	53	55	41	34
年間記事数	1,982	1,467	1,625	1,448	1,158

（4）情報交流コーナーの活用（「さぼらんて」前面フロア）

- ①市民活動紹介コーナー 団体紹介ミニポスターを作成し掲示。
- ②助成金コーナー 展示場所を前面に出しリニューアル。
- ③NPO法人情報コーナー NPO法人格取得に向けて情報などを設置し、掲示がマンネリ化しないようにレイアウトを随時変更するとともに、市民活動等に関する情報を分野に分け、見出しやコメントをつけて掲示し啓発。

（5）マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを行い、団体の活動が新聞記事やTVニュースにも取り上げられた。

（6）市役所ロビーにおける市民活動出張展示

さぼらんてに常設している「団体紹介ミニポスター」を転入の多い時期に、市役所ロビーにて展示することで、日頃来館する機会の少ない市民に向けて、団体情報の提供をし、市民活動啓発につなげる。「市民活動」を山口の魅力のひとつとしてアピールし、まちづくり参加への意識向上をねらっている。

団体のパンフレットはもとより、さぼらんてのパンフレットやええやん新聞などの一般市民の持ち帰り数も多く、市役所への来館者や転入者への広報手段としては有効であった。

【展示内容】

- ・さぼらんて情報
（さぼらんてパンフ、ええやん新聞、「支え人。」パンフ、かわら版、子育て応援団冊子）
- ・登録団体活動紹介ミニポスター49団体
（子育て11団体、環境4団体、東日本支援3団体、文化・国際6団体、まちづくり全般16団体、福祉9団体）
- ・団体パンフレット（20団体、28種）

【展示場所】

開催日：平成28年3月24日(木)～4月8日(金)（12日間※土日除く）

場 所：山口市役所ロビー

3 相 談

市民活動支援の基本を相談に置き、多様な相談に対応。特に運営相談は、寄り添い支援を基本に必要な場合は専門家と連携し、誠実に対応していった。

また、商店街に設置されていることから、市民からの活動相談等も半数近くを占め、個人の活動への相談対応や、市民活動団体との橋渡しも行った。

(1) 相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メールによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

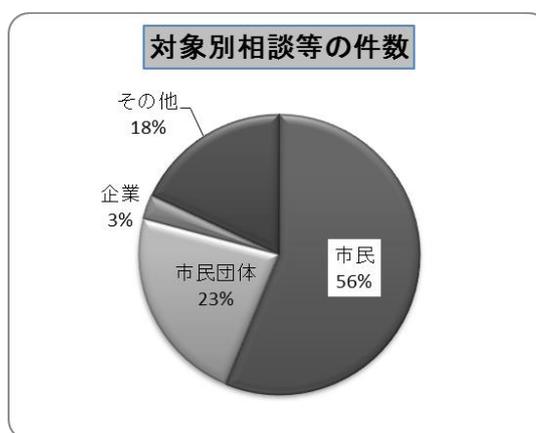
○相談件数 548件 (来所 286件、電話 262件)

○問い合わせ件数 239件 (来所 137件、電話 102件)

※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は598件(グラフ集計総数)

【対象別相談内訳】

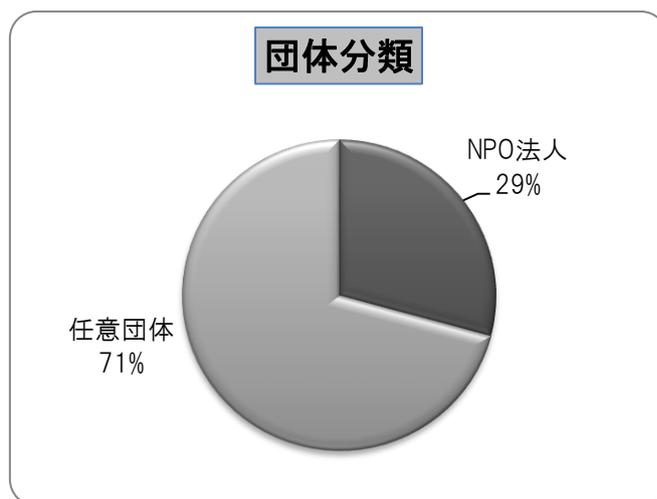
対 象	件 数
市民	336
市民団体	137
企業	17
その他	108
合 計	598



相談件数の半数以上を市民が占めている。その他の中で地域からの相談が1割あり、地域からの新たなニーズを感じた。

【団体からの相談内容種類別内訳】

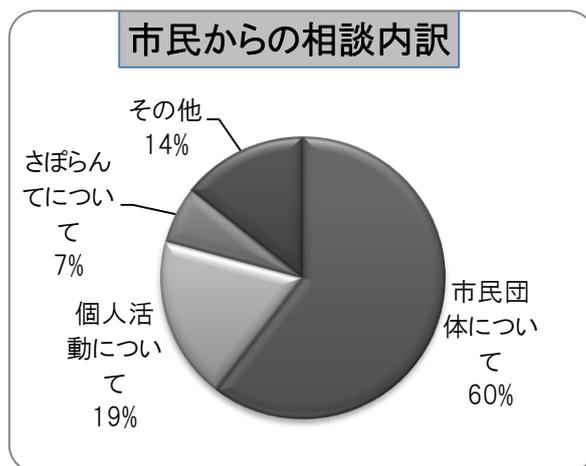
団体分類	内容	件数	
NPO法人	運営	17	40
	活動	23	
	その他	0	
任意団体	運営	18	97
	活動	73	
	その他	6	
合 計		137	137



相談の3分の2を占める任意団体からは、ブログ、チラシ等情報発信の指導の他、クラウドファンディングや寄付の集め方についての相談が目をついた。NPO法人からの相談は、定款やビジョン整理など運営に関するものが4割を占め、残りは、助成金相談やイベントの周知に関するものとなっている。

【市民からの相談内容内訳】

内 容	件数
個人的活動について	63
さぼらんてについて	22
市民団体について	203
その他	48
合 計	336



市民からの相談の6割以上が市民活動団体への問合せ。
また、ボランティアをしてみたいなど個人的な活動についての相談も2割近くある。市民の社会貢献意欲がうかがえる。

(2) 相談・問い合わせの内容の一覧化

寄せられた相談・問い合わせ内容を一覧化し、NPO法人等対象別に相談内容を取りまとめ、分析し相談内容の予測を行うとともに、必要な情報や知識等の蓄積に努め相談対応に反映。

4 人材発掘・養成

公共を担っていくための「社会的信頼を得られる継続活動」に向けて、情報発信力とマネジメント力に重点をおいて、講座、研修、訪問等を行っていった。今年度は県の「ソーシャルインパクト志向NPO超育成塾」を受託し、昨年に引き続きファンドレイジング力の強化も行った。

企業×NPOのつながりプロジェクト「支え人。」や団体訪問を通じてNPO法人の多様な財源確保・マネジメント力を支援。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

(1) 講座・セミナーの開催

① 活動充実講座

	講座・研修	日付	講 師	参加者
1	助成金にチャレンジ	5/24	渡邊 洋子 <センター長>	2 団体 4 名
2	人をよびこむチラシ講座 チラシから広報のあり方を考えよう	6/14	小柳 明子氏	8 団体 10 名
3	人をよびこむチラシ講座 人を惹きつける見せ方のコツ	7/12	小柳 明子氏	7 団体 8 名
4	市民活動団体のための Excel 活用術 Excel の基本 会計簿をつくる	11/8	武田 由佳 <さぼらんてスタッフ>	6 団体 9 名
5	市民活動団体のための Excel 活用術 Excel の応用 いろんな使い方	1/17	藤岡 亜希子 <さぼらんてスタッフ>	4 団体 6 名
6	ロジックモデル勉強会	2/3	長浜 洋二氏 <Publico 代表取締役 CEO>	9 団体 23 名

②情報発信充実講座

	講座・研修	日付	講師	参加者
1	SNS を使いこなす SNS って何？	9/2	千々松 葉子氏 ＜パインワークス＞	5 団体 6 名
2	SNS を使いこなす SNS 使いこなし術	9/30	千々松 葉子氏 ＜パインワークス＞	4 団体 7 名

③ソーシャルインパクト志向 NPO 超育成塾（※山口県県民活動団体内核の人材育成受託業務）

	連続研修	日付	講師	参加者
1	I オープニングセミナー 社会を変える市民組織づくり	8/27・28	一般社団法人 日本地域福祉ファンドレ イジングネットワーク COMMNET 久津摩 和弘氏	11 団体 31 名
2	II-1 実践型ワーク 社会課題の把握&ミッション編 Part1	9/3		7 団体 20 名
3	II-2 実践型ワーク 社会課題の把握&ミッション編 Part2	10/8		7 団体 19 名
4	III-1 実践型ワーク 事業企画づくり編 Part1	10/22		8 団体 18 名
5	III-2 実践型ワーク 事業企画づくり編 Part2	11/5		9 団体 17 名
6	IV-1 実践型ワーク ファンドレイジング編 Part1	12/10		5 団体 12 名
7	IV-2 オプションセミナー クラウドファンディング実践編 Part1	12/10	NPO 法人皆繋代表 林 陽一郎氏	5 団体 12 名

【関連支援】

期間中に全ての団体へ寄り添い支援を実施（のべ15回）

【成果】

参加者アンケートにおいては、恒常的なファンドレイジングやクラウドファンディングへの高い意欲が見られた。1 団体においては、期間中にクラウドファンディングを実施し143 万円もの寄付が集まった。



(2) NPO マネジメント支援

①訪問サポート（おでかけさぼらんで）

NPO 法人の人材不足、資金不足の解決と、公共を担える安定した組織運営をめざし、まずは、理事・職員のマネジメント力をつけていくために、専門家の協力も得て複数回寄り添い、課題整理を支援。

○NPO 法人へのファンドレイジングに向けて指導：2 法人へ14 回

専門家とともにクラウドファンディングの立上げをサポート。共に 1,571,000 円と 1,430,000 円を達成し 28 年度 2 団体総額で 6,000,000 万円もの寄付が集まった。

○任意団体への運営強化支援：5 団体へ15 回

主に NPO 法人を目指す前提での対応が多く、1 団体においては前向きに検討中。

○団体税務基礎知識勉強会：1 回

②企業等への PR 活動

○女性創業セミナー（10/11）における「支え人。」のプレゼンテーション

○ソーシャルビジネス創業支援交流会（12/17）でのクラウドファンディング事例の紹介

○県央商工会会員交流会（7/7）におけるプレゼンテーション

③アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」（5年連続推薦団体が受賞）などの推薦を行った。

○山口市の平成28年度地域貢献賞 りす会山口

（3）企業×NPOのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

3年目を迎えて大きな広がりはなかったものの、それぞれNPOと企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

【平成28年度実績】

寄付金総額 265,594円 <NPO法人3法人に対して8社からの合計>

3年間の寄付総額 781,048円

エントリーNPO法人：①認定NPO法人こどもステーション山口

②認定NPO法人支えてねットワーク

③NPO法人あっと

協力企業：①（株）メルシー

②Natural Therapy Brù（ナチュラルセラピーブルー）

③Original Flower Blend Tea RingLink（オリジナルフラワーブレンドティー リングリンク）

④（有）寿司やす

⑤（株）モリイケ

⑥（有）BAY TOKYO

⑦木のおもちや専門店 リンドヴルム

⑧ヨガルーム Bugen 華（H27新規）※寄付金贈呈は次年度より

その他の連携：（有）ひわだや：ひきこもり就労支援

（株）NFデバイステクノロジー：寄付つき商品の活用

今後も企業への理解を地道に広げ、地域をみんなで支える文化を創出したい。

（4）NPO法人実態把握

山口県NPO法人データベースより、山口市のNPO法人を抽出し、寄付金の現状や会計規模を整理、分析し今後の支援策を検討。

○山口市に主な事務所を置くNPO法人数：83法人<平成28年3月末>

○認定NPO法人：2法人

○収入合計は13億220万円（昨年度比1,420万円減）。寄付金額の合計は1,323万円（前年度比329万円減）。事業報告書が1枚のみが32法人44%を占める。

※事業報告書の未提出法人10法人、新規認証のため報告書の提出義務なし1法人、経常収益ゼロ4法人をのぞいた合計。

【山口市のNPO法人の合計収入内訳】

（単位：円）

項目	H27年度	H26年度	H25年度
会費	23,795,139	24,692,185	26,599,543
寄付金	13,226,162	16,518,648	23,244,838
助成金	16,031,078	29,331,677	69,933,250
補助金	30,764,552	16,508,936	98,695,779
事業収益	1,218,387,716	1,229,351,116	1,158,458,816
合計	1,302,204,647	1,316,402,562	1,376,932,226

【山口市のNPO法人の寄付金額別法人数】

寄付金額	H27 年度	H26 年度	H25 年度
0	28	27	22
1～50,000	18	15	14
50,001～100,000	6	4	5
100,001～500,000	10	12	13
500,001～1,000,000	2	2	2
1,000,001 以上	4	4	5
合 計	68	64	61

※有効対象法人数

事業報告書未提出、新規認証のため提出なし、活動計算書上の経常収益ゼロの法人をのぞいた数。

H27 年度：68/83 法人

H26 年度：64/78 法人

H25 年度：61/80 法人

○全体収入にしめる寄付金収入の割合はわずか 1.0%

○寄付金収入あり 40 法人 (58.8%) そのうち寄付金額 50 万円以上 6 法人 (8.8%)。

(5) 若者の社会貢献の機会提供およびボランティアコーディネート事業

日本の若者は諸外国と比べて、自己肯定感が低く、「自分自身に満足している」者の割合は 5 割弱。特に 10 代後半から 20 代前半にかけて諸外国との差が大きい。また社会課題への関与や社会参加についても意識が低い。(2014 内閣府調べ)

背景として、他者に自分が必要とされていると実感できない、自分が人の役に立つという体験や達成感の少なさ、社会貢献教育を受ける機会や社会貢献参加の機会が少ないことが言われている。

そこで、若者ボランティアを必要とする市民活動団体とつなぎ、社会課題や社会貢献の意義に触れる機会と参加の場を提供するとともに、双方が共通の目的・目標をもって社会課題解決に向け活動できるようにコーディネートを行った。

日時：8月6・7日(15時半～21時半)

場所：さぼらんて

内容：商店街のイベント山口セタちょうちんまつりの夜に行う、市民活動団体のバザーに大学生、高校生ボランティアが参加。

①オリエンテーション

団体から：3.11 の被災地の現状、活動のきっかけなどの紹介

学生から：参加の動機、団体への質問

②ボランティア内容

- ・まかないカレーづくり
- ・ちょうちんの火入れ
- ・東日本支援チャリティポップコーンの販売

③参加者

りす会山口 5 名

学生ボランティア 17 名(2日間)

山大職員 1 名

④その他協力

山口の街並を着物で歩こう会(浴衣レンタル、着付け)

⑤チャリティ金額 70,800 円(ポップコーン 708 個売上)



成果：学生からの感想に「ボランティア体験が楽しい」「やってよかった・またやりたい」「ありがとうと言われたことがうれしかった」「自分で考えて作業した」など達成感や自己を肯定することばや、「団体のことが知れてよかった」「東日本復興に関わられた」など社会課題や社会貢献に関心を寄せるものが多くみられた。今後も中高生や学生向けのボランティア受け入れやプログラム内容を充実させ、大学や教育機関等と連携し気軽に参加できる機会を提供していきたい。

(6) 中学生職場体験プログラム

中学生のキャリア教育を受け入れることで、「子ども向けの社会貢献教育プログラム」の確立をめざす。

日時：9月27日（火）

対象：大内中2年生 2名

内容：さぼらんての紹介をしたのちに、社会課題について考えるワークや、支援の現場を見学してもらい、ブログ記事にして発信してもらった。事前に課題図書を読み込みもお願いしたが、真剣に向き合い、理解してくれた。

(7) インターンシッププログラム

大学生本人からの申し入れにより、大学と調整して受入体制を整えた。

日時：2月20日（月）～3月6日（月）11日

対象：園田女子大学短期大学1年 1名

内容：オリエンテーション…さぼらんてとは？NPOとは？山口市の市民活動団体の紹介
体験：寄付ワーク、団体訪問ボランティア体験、打合せ参加、公共交通検討会参加
業務：ぶちええやん新聞編集作業、HP入力作業、ブログ発信、入金作業 等

成果：大学生の充実度も高く好評なプログラムとなった。このような機会を増やしていくことが、市民活動への理解を広げることになると確信できた。今後も計画的に受け入れを行っていきように、山口県インターンシップ推進協議会に登録を行った。

5 協働促進・ネットワークに関する業務

(1) 地域版コドモジカンププロジェクト

平成27年度の市民団体の円卓会議「さぼカフェ」からスタートした、「街中コドモジカンププロジェクト」で多く寄せられた「住んでいる地域にこういう活動があれば助かるのに」という意見をもとに、子どもが歩いていける地域単位で開催することとなった。地域づくり協議会の調整協力を頂きながら、大内の3地域での実施を支援。

①目的：地域の宝である子ども達に、遊びと学びを備えた居場所を提供すること。

地域で子どもを見守る取り組みをきっかけに地域コミュニティが活性化すること。

②内容

問田地区

日時：7月29日（月）10：00～15：00

場所：問田公民館、光厳寺駐車場

参加者：小学生17名 住民ボランティア5名 講師9名 運営スタッフ7名

小野地区

日時：8月9日（火）10日（水）10：00～16：00

場所：小野公民館

参加者：小学生39名 住民ボランティア5名 講師14名 運営スタッフ4名

氷上地区

日 時：8月19日（金）9：00～15：00

場 所：氷上公民館

参加者：小学生23名 住民ボランティア7名 講師11名
運営スタッフ5名



③地域支援内容

- 地域の自主性を活かしたプログラム内容のコーディネート
- プログラム協力団体の紹介、調整
- 開催チラシの作成
- 参加者アンケートの作成、集計
- かわら版の作成
- 合同報告会の運営
- 活動内容広報用のDVD（各地域別、総合用4種作成）、パネル作成

④振り返り

リーダーアンケート（6名）では、継続する方向で検討すると回答した方が5名、わからないと回答した方は1名のみであった。全員が趣旨に賛同、これからの自治会運営に生かせると回答。住んでいる地域の大人と子どもたちで協働できるところに真価があるとの回答もあった。保護者に向けたグーグルアンケートでは、来年も参加させたい84%、可能な限り手伝いたいとの回答は90%にも上った。

今回の3地域は冬休みにも開催した地域が1地域あり、次年度も開催するとのこと。

地域のつながりに向けては有意義なプロジェクトであることははっきりと見えてきた。

（2）さぼカフェ（2回開催）

多様な団体や関係者を集めて行うさぼカフェ。今年度は、災害などの非常時の支援に不安を持っている市民活動団体へのヒヤリングを通して、アレルギーや発達障害などの見えない障害の方の困りごとを共有していく場が必要だと感じ開催した。

第1回 日 時：5月13日（金）10：00～12：00

場 所：さぼらんて 参加人数：11名

参加者：市民活動団体5名、山口市協働推進課2名

テーマ：特別な配慮を必要とする人の災害時支援を考える

第2回 日 時：6月30日（木） 10：00～12：00

場 所：さぼらんて 参加人数：11名

参加者：市民活動団体4名、山口市協働推進課2名

テーマ：特別な配慮を必要とする人の災害時支援を考える



以上を踏まえて、たくさんの人に知ってもらうことが災害時の不安を取り除くことになるということを知ったので、行政も巻き込んだ防災シンポジウムを開催することとなった。

（3）防災講演会～思いやりでつくる地域防災（りす会山口と山口市協働推進課と協働で実施）

さぼカフェを通じて、「特別な配慮を必要とする人の災害時支援」と題し、災害が起こったときに支援が行き届きにくいと思われる社会課題を抱えた市民活動団体、山口市の保健師に参加してもらい、防災

の専門性の高い団体のコーディネートのもと開催した。

日 時：11月20日(日)9:30~12:00

場 所：パルトピアやまぐち 大ホール

参加者：72名

講 師：防災士 佐藤一男氏(陸前高田市)

コーディネーター：山口災害救援 弘中秀治氏

りす会山口 金子寿徳氏

シンポジウム登壇者：田辺理恵氏<アレルギーっ子の会ぼれぼれ>

藤岡亜希子氏・福田みゆき氏

<マザーズスマイル山口：発達障害児を抱えるママの会>

吉村隆氏<NPO法人山口県腎友会>

近藤氏<山口市保健師>

終了後、早速、児童民生委員から声がかかり、地域に話をしに行くことになったとマザーズスマイル山口さん。また入会申込みがあったというアレルギーっ子の会ぼれぼれさんからも報告を頂いた。今後地域での話し合いの要望があれば対応していきたい。

(4) おもちゃ de night はじめの一步支援および団体マッチング事業

複数の団体による実行委員会形式で「人・モノ」持ち寄りの共助型チャリティバザー「おもちゃ de night」を開催。事前説明、オリエンテーションの後、商店街が一年で一番にぎわう山口七夕ちょうちんまつりに併せてバザーを開催し、団体パネルを作成するなど活動PRも行う。

日々の収益活動が収益事業に該当するか否かを押さえ、社会の信頼に応えるNPOを育成するとともに、若い団体の新たな事業展開を応援するため、団体からのニーズの高い、他団体交流をしかけながら、今回は非課税で効果的な共助型バザーを企画・コーディネートした。

【内 容】

ステップ1 おもちゃ de night 実行委員参加団体募集(募集要項は別紙):5月初旬

ステップ2 おもちゃ de night 説明会

日 時:6月24日(木)10時~12時 参 加:4団体+1企業

内 容:参加方法によるグループ分け・納品・売上について/団体PR物について

ステップ3 おもちゃ de night 開催

日 時:8月6・7日(土・日)16時~22時

内 容:グループAが2時間ずつ店番。グループBは売上の20%をAに寄付。

各団体パネル・リーフレットなど設置・配布し活動をPR。

ステップ4 HP・ブログ・FB等で情報発信

【参加団体】7団体1企業、バザー以外の屋台参加1

【バザー売上総額】44,650円

事前の説明会やワークにより団体同士の交流が進んだ。

企業参加枠も設け社会貢献の場を提供。

任意団体の活動費捻出としては、最適の方法。今後も実行委員会形式をコーディネートしていきたい。

(5) 山口市公共交通地域検討会(山口市交通政策課委託)

山口市が市内10ヶ所で行う公共交通の地域検討会のプログラム作成と2か所の検討会のファシリテートを行った。



①目的：地域ニーズや実情を把握し、市民交通計画に反映するとともに、今後の事業展開に向けて地域の気運を高める

②内容

仁保・小鯖・大内

日 時：3月6日（月）14：00～16：30

場 所：大内地域交流センター

参加者：24名

秋 穂

日 時：3月16日（木）14：00～16：30

場 所：秋穂地域交流センター

参加者：14名

③振り返り

課題を中心にした地域の話し合いは、初めての試み。関わった4地域の参加者は前向きだったと感じる。今後は、よりたくさんの地域住民を巻き込んで当事者意識をどう広げて行けるかが重要。その話し合いの中での意見の分類整理、情報発信、地域調査のサポートが必要。サポート体制をつくるためにも、担当課、協働推進課、地域づくり協議会との連携が前提となる。

(6) 市民活動団体円卓会議

第2次協働推進プラン策定にあたりどのような支援が一番効果的であるかを吸い上げ、プランに反映するために昼の部と夜の部とそれぞれ2回ずつ実施

日 時：昼の部：11月14日（月）・11月29日（火）

夜の部：11月11日（金）・11月21日（月）

参加団体：

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ①フードバンク山口 | ⑦ainowa project |
| ②air結婚応援部 | ⑧肢体不自由児親の会 amiami |
| ③認定NPO法人支えてネットワーク | ⑨NPO法人クロスロード |
| ④マザーズマイル山口 | ⑩アレルギーっ子の会ぼれぼれ |
| ⑤認定NPO法人こどもステーション山口 | ⑪NPO法人山口県腎友会 |
| ⑥AGER | |

プログラム：①自己紹介 ②課題を出す ③その理由は？ ④解決に向けて

⑤協働とは？ ⑥協働したいこと ⑦解決したい社会課題、めざす社会

協働推進に向けての意見（抜粋）

【組織力をつけるために】

- ・専門家の支援でマネジメント力をつける。
- ・拠点については、多様な団体とつながることで可能性を見いだせる。
- ・さぼらなくてが団体寄り添い支援の体制をつくる。

【協働推進に向けて】

- ・自分たちの活動が山口市の課題解決（定住促進など）につながるストーリーを持つ。
- ・協働プロジェクトの発信。
- ・地域交流センターとの円卓会議。
- ・市民活動団体が山口市の総合計画を知る。
- ・地域交流センターのコーディネーター力。

【その他の協働への意見】

- ・異業種との連携の推進（どちらかに負担がかかると続かない）。
- ・市民をボランティアで巻き込む。
- ・地域の「あきらめ」を「希望」に変えるストーリーを持つ。
- ・山口のコマーシャルづくり。
- ・地域の人の困りごとを話し合う機会を持つ。
- ・小・中学校とつながる。
- ・地域のリーダーをNPOで育成。
- ・地域の課題が市民に認識されるような発信を。
- ・地域へのNPOプレゼン会の実施。

成果：団体の本音を行政と共有できたこと、団体同士の連帯感が生まれたことが何よりの成果。

(7) その他の協働促進

①担当課との定期的な情報交換会を開催

事業のめざすものなどが共有でき、NPO訪問への同行もありパートナーとして、お互いを理解することができた。

事業の中で、コドモジカンプロジェクト体験報告会の協力を始め「ええやん新聞」の地域への回覧版の手配、立地企業へのNPOのPR、春の転出入時期の市役所でのロビー展示などにおいて役割分担ができスムーズに実施できた。

②山口市ふるさと納税説明会の広報等

新設された山口市ふるさと納税の寄付型の説明会の声かけを行った。

(8) その他のネットワーク

団体の主体性を尊重し合い、有機的な効果を生み出すための自発的なネットワークへの環境づくりを心がけ、また、今年度は特に企業とも連携しつながりを広げた。

①市民活動団体行事への参加

団体主催のセミナーや行事に参加し、ブログ等に紹介していった。

②商店街との連携

- ・商店街のイベントへの協力、団体との調整、ペナント張替などに参加。また、サンデー山口にPR掲載。
- ・商店街主催の防災訓練への参加。

③ 視察等の受け入れ

全社協のヒヤリングや平生町の視察の他、他県からの資料提供にも応じた。

④ 関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議】

会議名	主催	日付	場所	参加者
県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	5/20	パルトピアやまぐち	2名
県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	3/18	パルトピアやまぐち	2名

【審議会等】

会議名	主催	日付	場所	参加者
山口県立大学ドリームアドベンチャープロジェクト選考会	山口県立大学	6/8	山口県立大学	1名

チャレンジやまぐち地域貢献賞選定会議	山口県	7/15	山口県庁	1名
山口県県民活動審議会	山口県	8/24	山口県庁	1名
山口県立大学ドリームアドベンチャープロジェクト報告会	山口県立大学	1/25	山口県立大学	1名

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

○平成28年度末 登録団体数：303団体（前年度301団体）

＜NPO法人43団体、その他の法人5団体、任意団体255団体＞

新規登録団体数：17団体

解散団体数：12団体

登録抹消団体数：3団体

(2) 登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

○団体BOX利用

要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：81団体

○印刷機材の提供

利用件数：275件

利用団体数：54団体

○会議室の提供

利用件数：355件

利用団体数：31団体

○市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：37件（延べ利用日数106日）

利用団体数：18団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。

イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：17件

③広報支援

○「さぼらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぼらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：延べ40団体（偶数月発送作業）

○マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

○ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた、団体のイベントちらしなどの情報は全て、ホームページの団体行事カレンダーに反映した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：206件

<input type="checkbox"/> ワイヤレスマイク一式	12件	<input type="checkbox"/> マルチプロジェクター	18件
<input type="checkbox"/> スクリーン	15件	<input type="checkbox"/> パネル	29件
<input type="checkbox"/> イーゼル	34件	<input type="checkbox"/> 長机	28件
<input type="checkbox"/> ラジカセ	2件	<input type="checkbox"/> 延長コード	9件
<input type="checkbox"/> 台車	19件	<input type="checkbox"/> その他	40件

7 その他の事業

(1) 館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぼらんてでは寄付やカンパを募り、東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額 32,992円

寄付先 ①りす会山口
②福島～山口いのちの会
③山口災害救援

上記団体に10,000円ずつの配分

IV 運営

1 職員体制

職員の内外研修により支援力の向上に努めるとともに、定期的（毎月）な職員ミーティングにおいて、事業企画や課題への意見交換を行い、支援力を磨き、多様な団体支援に対応できる体制を整えた。また、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

○常勤 3名 非常勤 12名

2 意見聴取

「さぼらんて」への意見・要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

○市民活動団体来所時及び相談対応時における意見の聞き取り。

○「さぼらんてだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。

○講座開催時の参加者アンケートによる把握。

○ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒヤリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。

○団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。

○カジュアルな円卓会議「さぼカフェ」により、多様な専門活動をしている人と社会課題を掘り下げた。

○インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識を掘り下げた。

3 定例連絡会等

「さぼらんで」設置者：山口市協働推進課と運営NPO職員と、よりよい市民活動支援に向けて、定例連絡会を実施。

事業実施におけるスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内容	担当課	さぼらんで
5/9	クラウドファンディングの取り組みについて	2名	4名
6/28	大内地域との連携について	2名	4名
7/22	地域連携を中心した報告	2名	4名
12/6	今後の方向性と次年度事業について	2名	4名
2/24	次年度事業について	2名	4名
3/21	さぼらんでと今後の地域との関わり	2名	4名

※8月末から12月にかけて、NPO超育成塾において市民活動支援の意義を共有する打合せを4回実施。
その他、円卓会議や防災シンポジウムに向けての打合せを随時実施。

【山口市協働推進課関係会議等】

会議名	主催	日付	場所	参加者
山口市市民活動交付金検討部会	山口市協働推進課	4/13	山口市役所	1名
山口市市民活動促進交付金検討部会	山口市協働推進課	5/25	山口市役所	1名
櫻井氏を囲んだ打合せ	山口市協働推進課	3/1	山口市役所	1名

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。参加講座・研修24回、のべ39名。

- ①運営支援のための講座・研修 12回 のべ23名
- ②個別テーマやワーク支援のための講座・研修 12回 のべ16名

➤ 研修一覧

【運営支援のための研修】

日付	講座名	主催	場所	参加者
11/6	戦略共有会議 2016in 山口	中国5県中間支援 組織連絡協議会	防府市地域協働 支援センター	2名
11/4	NPO会計入門第1回簿記講座	やまぐち県民活 動支援センター	パルトピアやまぐち	3名
11/11	NPO会計入門第2回簿記講座		山口ふるさと伝承総 合センター	3名

12/2	NPO会計入門第3回簿記講座	やまぐち県民活動支援センター	パルトピア やまぐち	2名
2/22	NPOのための労務セミナー			1名
3/1	地域づくり待ったなしセミナー			1名
3/22	使えるノウハウ獲得セミナー			2名
3/24	NPO事務局に求められる3種の仕事関連知識の共有			2名
8/21	地域をよくするお金サイクルをまわそう！	防府市市民活動支援センター	ルルサス	1名
12/4	FRJ 関西 2016	日本ファンドレイジング協会	大阪大学豊中キャンパス	2名
1/21	岡崎市北部地域交流センター視察		岡崎市北部地域交流センターなごみん	2名
1/22	社会貢献教育ファシリテーター研修	日本ファンドレイジング協会	名城大学	2名

【個別のテーマやワークの支援のための研修】

5/28	男女共同参画講座1回目 「オンナの本音・オトコの本音」	山口市男女共同参画ネットワーク	山口市男女共同参画センター	2名
6/3	CAP 座談会 ～子どもの自尊心を育む～	CAP 西京	さぼらんて	2名
6/18	男女共同参画講座2回目 「憲法に見る男女」	山口市男女共同参画ネットワーク	山口市男女共同参画センター	1名
6/25	こども明日花プロジェクトボランティア説明会	NPO法人山口せわやきネットワーク	カリエンテ山口	1名
6/27	みんなで考えよう！防災災害から子どもや女性を守るために準備しておくこと	防府市市民活動支援センター	防府市市民活動支援センター	1名
7/2	生涯学習活動地域コーディネーター養成講座	山口県ひとづくり財団	山口県セミナーパーク	2名
7/6	山口市クラウドファンディング説明会	山口市ふるさと創生部創生推進課	白石地域交流センター	1名
7/16	男女共同参画講座3回目 「メディアに見る男女」	山口市男女共同参画ネットワーク	山口市男女共同参画センター	2名
8/26	UDC2016in やまぐち 地域づくりアイデアソン	山口市情報管理課	山口ケーブルビジョン(株) 1F 地域情報交流センター	1名
11/1	高校生熟議 2016	山口県立西京高等学校	山口県立西京高等学校	1名
11/19	グラフィック・ハーベスティング基礎講座	NPO法人市民プロデュース	ソレーネ周南	1名
12/6	ママが元気になる子育て応援講座	大内まちづくり協議会健康福祉部会	大内地域交流センター	1名

V 今後に向けて

《市民活動団体（NPO法人含む）の集約される課題》

人材確保や教育、多様な財源確保に向けての体制や運営力強化がすすまない。

《考えられる原因》

- ・団体は、事業に追われ、運営体制を整える余力がない。
- ・非営利組織のマネジメントをどうすればよいのかわからない。

《市民側の集約される課題》

- ①学生や一般の「機会があれば活動したい」と思っている人が多いのに活動できていない。
- ②20代～50代の市民で「地域課題が共有できていないと思う」人は、65%以上を占める。

《考えられる原因》

- ①活動のきっかけがない。（情報が無い、忙しくてもできる活動がないなど）
- ②地域課題を共有する機会がない。（情報が無い、話し合う場がないなど）

「山口市まちづくりアンケート」や内閣府の「NPO法人実態調査」「市民のボランティア意識調査」の報告などから上記を前提に支援を行った。

NPOマネジメント力は、ノウハウもなく事業に追われなかなか整理する時間が取れない実態があるので今後も伴走型の支援とセミナーを実施予定。市民の巻き込みについては、ええやん新聞などカジュアルな発信ツールなどを工夫し知らせて続けて行きたい。また大学生など若い世代の巻き込みは特に意識し、大学とも連携してインターンシップ募集やボランティア募集を行う。また、地域にも目を向け、地域づくり交流センターへの訪問などを通じて「コドモジカンプロジェクト」の紹介や話し合いの場づくりの支援を模索していきたい。

平成29年度も「情報発信の充実」「NPOのマネジメント支援」「課題をテーマにした話し合いの場づくり」「若者の巻き込み」をテーマに支援力を高め、「誰もが安心して心豊かに暮らせる山口市」へ貢献していきたい。